

## 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会 第4回会議 会議概要

日 時 令和4年11月17日(木) 10時00分～12時00分  
場 所 滋賀県庁 北新館5階 5-B会議室  
出席委員 会 場：若松委員、馬淵委員、松浦委員、寺田委員、明吉委員、樋口委員、北村委員、東谷委員、小南委員、加藤委員、犬井委員、浦島委員、福井委員、塚本委員、木部専門委員、田中専門委員  
リモート：原委員 (出席17名)  
欠席委員 井手委員、都賀委員、炭谷委員 (欠席3名)  
県出席者 福永教育長、村井教育次長、嬉野教育次長、横井高校教育課長、澤幼小中教育課長、青木保健体育課長、小林私学・県立大学振興課長、中島競技力向上対策室主幹、白井参事、杉原参事、武原主幹、他関係職員  
傍聴者等 傍聴：2名 報道：1社

### 1 開 会

- (1) 滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会第3回会議の概要について  
事務局より資料1-1に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

### 2 協 議

「生徒の優れた点を多面的な観点で評価しつつ、主体的な進路選択を推進する入学者選抜方法等のあり方について」

論点①「推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、特色選抜の現状と課題など」

論点②「一般選抜の現状と課題など」

論点③「入試日程および入試業務など」

- (1) 論点③「入試日程および入試業務など」についての協議

事務局より県内私立高校、近隣府県の私立高校を含めた令和5年度入学者選抜日程(資料1-2)とWeb出願に関する資料(資料1-3)の説明を行った。これらの説明を基にWeb出願の導入を前提に二次選抜や転編入の在り方や業務負担の軽減も踏まえ、1月から3月にかけての入試日程について意見交換を行った。

○主な意見は次のとおり。

- (ア) 全ての日程を前倒しすることについて、検討してもいいのではないか。 (高校関係者)
- (イ) 中学3年生の学習内容や量、また入試に係る進路指導や業務を考えると、出願変更を含め日程については現状のままがよい。また、Web出願については、中学校の職員も出願状況を把握できるシステムを構築する必要がある。 (中学校関係者)
- (ウ) 二次選抜日程が遅いことにより、一部の私立高校では入学者が確定できない状況が発生しており、経営に大きな影響を与えている。二次選抜の受検者資格から私立高校の合格者を除外するなど、公私共存の立場から検討してもらいたい。 (私立学校関係者)
- (エ) 二次選抜から私立高校合格者を除外することは、法的に可能なのか。子どもたちの受検機会を奪ってしまうことになるのではないか。 (市町教育委員会関係者)
- (オ) 中学校の立地条件や家庭の経済状況を踏まえると、二次選抜を廃止することは厳しい。 (中学校関係者)
- (カ) 転編入については、多様な生徒の学習環境の保障の観点から今後も必要である。しかし、二次募集の必要性や日程については検討してほしい。 (高校関係者)
- (キ) 高校現場では採点補助システムを導入したことにより、定期考査の採点業務が短縮された。入試においても導入できれば、合格発表までの期間が短縮できる。 (高校関係者)

(2) 論点①から論点③の総括協議

中間報告(素案)(資料2)を基に論点①から論点③を総括して、意見交換を行なった。意見を反映した「中間報告(案)」を次回の会議で協議することとした。

○主な意見は次のとおり。

- (ア) 入試制度は、高等学校側、中学校側のロジックだけで構成されるものではなく、保護者や中学生の実態に沿ったものであるべきである。エビデンスがどうなっているのかを検討し、中学生そのものの変化を踏まえ、多様性に応える制度を構築するべきである。 (学識経験者)
- (イ) 二次選抜については、受検者数のうち私立高校合格者がどの程度含まれるのかなどデータに基づいた議論を継続していく必要がある。 (私立学校関係者)
- (ウ) 改革のための改革にならないように、基本的に教育は何なのだということを根底に議論を進めなくてはいけない。 (市町教育委員会関係者)
- (エ) 滋賀県の子どもに対してのどのような教育を提供するのかなど、大きな枠組みの中で入試を捉える必要がある。 (PTA関係者)
- (オ) 今後ますます増えていくことが考えられる外国籍の子どもたちが、入試制度で心が折れるという事のないように配慮をさらに充実させる必要がある。 (市町教育委員会関係者)
- (カ) スポーツ・文化芸術推薦選抜で入学した生徒たちが中心となり、部活動の活性化など学校の推進役となっている。国スポ後も強化拠点校が維持され、県の体育・スポーツが推進されるような制度を継続してほしい。 (高校関係者)
- (キ) 自己推薦制度については、発想としてはよいが、推薦選抜を受ける生徒が増えていくことになり、1日の入試では対応しきれないこともあるのではないか。 (学識経験者)
- (ク) 自己推薦制度については、出願要件が必要である。評定等を出願要件にすることを検討できないか。 (高校関係者)

(3) その他

特になし。

### 3 閉会

- ・今回で最終の出席となる木部専門委員および田中専門委員から挨拶があった。
- ・閉会にあたり、福永教育長から挨拶があった。
- ・次回、第5回協議会の日程については、令和5年1月26日(木)15:15から開催する方向で調整し、委員には改めて連絡することとした。